

人気のログハウスの魅力を取材と記事で徹底解剖

ログハウスベスト

2019

最新 選んで良かった!
実例 住んで良かった!!

大誠ムック 50 定価 1,500 円

森の香り漂う

心安らぐ癒しの空間に住む

DIY で変わる自分暮らし

暮らしを変化させる / ROOM BLOOM

ブックラックを作る / CAINZ

ログハウスが選ばれる理由

ウッドライフをもっと楽しく、ちょっと贅沢に

ログ&キットハウス専門誌

ログハウス&キットハウス
本誌連動 HP

ログハウスイファン

検索





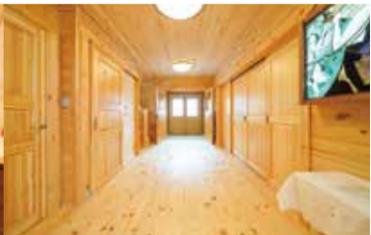
正面入口から奥にチャペルを見る。左はキッチン、右はトイレ。



右上：玄関から淡い光がホールに。結婚式では感激のバージンロードに。

右下：食事を重視する教会ではキッチンが重要。料理教室も行ふ。

左上：広々として清潔感ある洗面所。奥には、女子トイレ。



1階トイレ。「特に気を使い、図面を何度も書き直してもらいました」

ログ壁に囲まれた吹き抜けのチャペル 介護用、女性用を確保したトイレ

「サエラさんのDログが、ログハウスらしい外観でいいなと思いました」

業者が決まり、サエラホームを交えてのプランの練り上げには時間をかけた。図面は5〜6回引き直してもらった。さらに現場に入った大工さんにも、いろいろ相談にのってもらい、変更をお願いした。

その全体像を、まずは間取りから見てみよう。1階はログ壁に囲まれたチャペル。その上は吹き抜けで、2階テラスへと繋がり大きな空間を創る。1階には他に、ホールとキッチン。オフィスは2階とした。

最も協議を重ねたのはトイレ。介護用、女性用を確保し、全部で5つ。

それをどう配置にするか、便器の向き



正面玄関を見る。「開放感ある入口で皆さんをお迎えます」



入口横には、教会員さん手作りのグレースチャペルの看板。



チャペルまで真っ直ぐの玄関を設えた。



入口サイドにはスロープをつければバリアフリーにも。



存在感ある大きな窓はお気に入り。

Type 4

埼玉県・川口市

日本人に身近な木だけで教会を目指すのはコミュニティの拠点



西立野グレースチャペル
安田牧師

イスラエルで聖書を学び帰国後牧師に。この度、ログハウスの教会を建築。

イスラエルで聖書を学んだ10年。その中ではコミュニティのあり方も知った。

そして、日本人に身近な木の家への想い。その二つが重なり、今、完全に木造であるログハウスの教会が誕生した。

日本人に身近な木造にしたい ログハウスのプロテスタント教会

西立野グレースチャペルは川口北部にあるプロテスタント教会。道路沿いに見上げると壁の高さいっぱい広がる瀟洒な白樺の窓、そして、丸太が積み上がったログ壁が気持ちよく目に映る。

「完全に木で造った教会にしたかったので、ログハウスで建てたのです」

そう語るの、牧師・安田さん。

安田さんは、聖書を学ぶために、イスラエルのエルサレムに何と10年も滞在されていたという好学の士。帰国後、神学校に通い牧師さんになられたそう。

「日本人の自然観、宗教観を鑑みると、木への想いが強い。ログハウスの教会を建てたのは日本への想い入れからです」

イスラエルの地中海の周りでは、建物は石造りが主。対して日本では、古来、宗教建築から一般住宅まで、木造が主だった。ところが、近年では、新建材の登場で純木造建築は

少なくなっている。本来、身近だった木だけで教会を建てたい。その気持ちから、ログハウスでの建築に思い至ったそう。

メーカーは広島ログビルダー・サエラホーム。広島教会から紹介を受けた。

「セルフビルドのバックアップがしっかりしていたというので勧められました」

聞けば、東日本大震災後の復興支援の拠点として、東松島で所属する教団の支援センターを手がけたメーカーでもあったという。コンペで出してもらった基本プランは、柱のないスッキリした一体空間のチャペルでイメージ通り。それと、もう一つ。

「サエラさんのDログが、ログハウスらしい外観でいいなと思いました」

ログ壁に囲まれた吹き抜けのチャペル 介護用、女性用を確保したトイレ

業者が決まり、サエラホームを交えてのプランの練り上げには時間をかけた。図面は5〜6回引き直してもらった。さらに現場に入った大工さんにも、いろいろ相談にのってもらい、変更をお願いした。

その全体像を、まずは間取りから見てみよう。1階はログ壁に囲まれたチャペル。その上は吹き抜けで、2階テラスへと繋がり大きな空間を創る。1階には他に、ホールとキッチン。オフィスは2階とした。

最も協議を重ねたのはトイレ。介護用、女性用を確保し、全部で5つ。

それをどう配置にするか、便器の向き

右：2階テラスはチャペルに。宿泊にも使う。
 中：「2階テラスは頭の上から音が降ってくるようです」
 左：2階にある子供が遊べるスペース。



2階にある子供が遊べるスペースを入口側から見る。イスは寄付されたもの。



聖書の一節「神のなされることは、すべて時にかなってうるわしい」



壁の十字架は寄付されたもの。

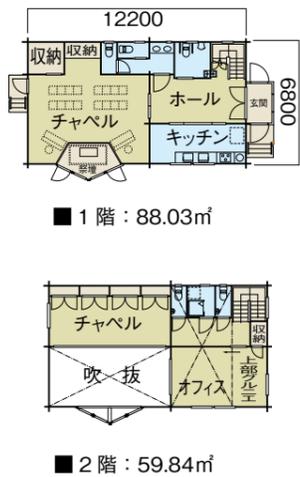


広々としたチャペル。ここでは、礼拝のほかに、結婚式、葬式、食事会、コンサート、英語教室、料理教室などを行う。

オーナーさんからのひとこと

この教会を、地域のコミュニティセンターとして位置付けられるよう展開して行きたいです。ログハウスを建てるにあたっては色々を見て回りました。サエラホームさんとは知人のご縁で知り合い、過去の施工例を見て、また、熱意ある対応により決めました。

教会 間取り図



■取材協力：株式会社サエラホーム TEL.082-256-4550

「子どもたちは口を揃えて『泊まりたい！』と言って、楽しみにしています」と泊まれるところにしよう。これは、当初から計画していることで、教会は、チャペルだけでなく寝食の機能も備えている。とりわけキッチンは大切な役割を担う。というの、礼拝の後「みんなで食事を摂る」ことを努めて実践しているのだ。テーブル「食事は心を和やかにするもの。テーブル音。キリスト教の宗教観という「神の声を聞く」という感覚には欠かせないことです」ログハウスの教会は、皆さんにも好評だ。「木の香りの良さは、教会員さんが口々に言っているところです。『落ち着くね』と」2階のテラスには畳を敷こうか、家具も木製品にしようかと、この建物が出来たことで教会員さんの間では自然素材へのこだわりの気持ちが高まっているところだという。

「『キブツ』に学んだ食事の大切さを目指すのは、コミュニティ・ハウス」

「和を重んじる」と言われる日本人。その私たちが親しんだ木の家。コミュニティを見守り、育む、大きな拠り所となるだろう。

「それだけは避けたかったです（笑）」メニユーは豊富だ。ご自身も含め、教会員の方々が色々なアイデアに挑戦してくれる。近頃は海外の教会員さんも多く、アフリカの方はアフリカンシチュー、韓国の方はキムチやビビンバを手作りしてくれるなど、国際色も豊かになっている。

「目指しているのは、コミュニティ・ハウス。近隣の人々が自由に出入りするよう。そういう建物にしたかったのです」

「和を重んじる」と言われる日本人。その私たちが親しんだ木の家。コミュニティを見守り、育む、大きな拠り所となるだろう。



ふんだんな採光が気持ち良い。



奥から入口を見る。音響が素晴らしいそうだ。



2階からチャペルを見下ろす。

をどうするか。何度も考え直した。2階テラスの手すりは、通常の倍の太さにして背丈も伸ばした。子どもが落ちないように守るためだ。限られた空間で収納スペースを捻出するためにも色々アイデアを尽くした。屋根が傾斜して背丈より低くなるところなど、利用できる箇所を見つけては活用した。

施工に際しては、外壁の塗装を教会員のみならず手がけることにした。「本当はセルフビルドを考えたいんですが、規模が大きかったので断念しました」足場を組み初日は10人ほどで一気に塗り上げ、その後、3人から5人位で5日ほどかけて細かいところを手分けした。「サエラさんは2缶で十分と言っていました。なんと5缶も使ってしまった！素人は厚く塗ってしまうんですね（笑）」

心に響く音…「神の声を聞く」木のチャペルの素晴らしい音響

出来上がったチャペルを神に捧げる「献堂式」は、9月15日のことだった。木のチャペルの出来映えはと尋ねると、「音響が素晴らしいんです。思っていた以上。生音の方がいいのでPA（音響拡声装置）を入れるのはやめました」音が教会全体にまわり、音に包まれる印象は、イタリアで聴いた、パイオルガンがある聖堂のそれにも通じるものだという。「神の臨在に包まれているような心に響くを囲み、話をするのは大切なことです」イスラエルには『キブツ』という集団農業共同体がある。そこでは能力に応じて共に働き、必要に応じて共に分かち合う。「キブツで中心となるのが食堂なんです。そこでは、みんなが食事を共にします」同じような考え方で、多くの教会でも食事を取り入れているところはあるが、メニユーは限られているようだ。